シ ラ バ ス 情 報

授業方法	講義　・　実験　・　(実習)
系　　列	自動車整備作業
科 目 名	シャシ電子制御実習
必修・選択	(必修科目)　・　選択科目
対象学科	一級自動車整備科
年次学期・曜日・時限	3年後期　・　木曜日　・　１時限～８時限
時 限 数	１００．８時限（期末試験を除く）
担当教員名	吉田　哲也・脇屋敷　竜太
実務経験	(有)・　無
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシ電子制御についての実習を実施する。
授業の目的	自動車シャシ電子制御装置のアンチロックブレーキシステム、車両安定制御装置、無段変速機（CVT）、SRSエア・バック及びプリテンショナ・シート・ベルトについて、基本と応用知識を活用した実践的な診断整備技術の手法を実習する。
テキスト	①シャシ電子制御装置　②自動車新技術　③二級自動車シャシ　④自動車定期点検整備の手引き　（日本自動車整備振興会連合会　発行）

授　業　計　画

授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第1回～第2回	無段変速機（CVT）	構造、機能、ECU制御機能、基本点検、整備、その他	②P93～
第3回～第4回	SRSエア・バック及びプリテンショナ・シート・ベルト	構造、機能、ECU制御機能、基本点検、整備、廃棄要領、その他	②P137～ ④P142～
第5回～第6回	車両安定制御装置	構造、機能、ECU制御機能、基本点検、整備、その他	②P113～
第7回～第8回	シャシ電子制御装置 高度故障診断技術１	AT　高度故障整備技術、センサ、アクチュエータ、ECU、テスタ、オシロスコープ取扱い	①P69～ ③P56～ ④P103～
第9回～第10回	シャシ電子制御装置 高度故障診断技術２	EPS　高度故障整備技術、センサ、アクチュエータ、ECU、テスタ、ST、オシロスコープ取扱い	①P139～ ④P31～
第11回～第12回	シャシ電子制御装置 高度故障診断技術３	ABS　高度故障整備技術、センサ、アクチュエータ、ECU、テスタ、ST、オシロスコープ取扱い	①P189～ ④P45～
第13回～第14回	シャシ電子制御装置 高度故障診断技術４	AT、EPS、ABSまとめ、高度故障整備技術、センサ、アクチュエータ、ECU、テスタ、ST、オシロスコープ取扱い	テキスト ①、③、④
	期末試験	第1回～第14回までの授業内容に関する実技試験	

到達目標	自動車シャシ電子制御装置のアンチロックブレーキシステム、車両安定制御装置、無段変速機（CVT）、SRSエア・バック及びプリテンショナ・シート・ベルトについて、基本と応用知識を活用した実践的な診断整備技術の手法を修得する。
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、期末試験を合算して行う。

定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。
成績評価基準	成績評価は、期末試験の点数が５０点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。 　期末試験の点数　８０％ 　平常点　　２０％ 上記の割合によって学期末の評点が７０点以上である場合、以下により評価する。 　70～79点＝良、80～89点＝優、90点以上＝秀 70点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで70点以上のとき履修を認定し、成績は70点=良とする。
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が５０％を満たしていない場合、 又は、成績評価が７０点未満の場合。